

令和 5 年 10 月 24 日現在

機関番号：43807

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K03249

研究課題名(和文) 育児への非意識的な感情に着眼した新しい動機づけ過程の解明と子育て支援への応用

研究課題名(英文) Elucidation of a new motivational process focusing on unconscious emotions toward childcare and its application to childcare support

研究代表者

小林 佐知子 (kobayashi, sachiko)

静岡県立大学短期大学部・短期大学部・教授

研究者番号：20630651

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、父親・母親の育児行動への動機づけ過程を意識・非意識の両面から解明するとともに、動機づけを促進・低減する関連要因について検討した。非意識的な動機づけ過程を捉えるために、潜在連合テスト(IAT)の手法の一つであるSC-IATの理論に基づいた心理尺度「育児SC-IAT」を開発した。育児SC-IATにはイラスト刺激を用いるなど、育児の具体的な場면을認知しやすい工夫をした。質問紙による意識的な動機づけには男女差がみられる一方、育児SC-IATによる非意識的な動機づけには明確な男女差は示されなかった。また、育児動機づけの関連要因の中で、ソーシャルサポートは重要な働きをすることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

“子どもは親が大切に育てるもの”という社会風潮の中で、育児へ向かわない親の心を捉えることは回答時に社会的望ましさ(バイアス)がかかりやすく困難である。本研究は、そうした測定上の困難さを解決し、育児行動の生起メカニズムにおける潜在的な心理過程を捉えようとするものである。本研究の結果は、親の心を深く理解することを通して、子育て支援をする人々に有益な知見となる。また、動機づけ研究や新しい尺度開発が進められるIAT研究の発展にも貢献することができるという学術的意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：This study examined the motivation process of the child-rearing behavior of fathers and mothers from conscious and unconscious aspects and the related factors that promote or reduce motivation. To clarify the unconscious motivational process, we developed a psychological scale "the childcare Single Category Implicit Association Test (SC-IAT)" based on the theory of the SC-IAT, which is one of the methods of Implicit Association Test. The childcare SC-IAT was devised to make it easier for subjects to recognize specific situations of childcare, such as using illustrations. While a gender difference was noted in conscious childcare motivation using questionnaires, there was no gender difference in unconscious motivation measured by the childcare SC-IAT. Moreover, the findings suggested that social support plays an important role in factors related to childcare motivation.

研究分野：発達心理学

キーワード：育児動機づけ シングルカテゴリIAT(SC-IAT) 父親 母親 育児行動

1. 研究開始当初の背景

近年、育児放棄や放任、父親の育児参加の少なさ等、育児を巡る社会問題が生じている。適切な親支援を行うためには、親の就労状況や性格等の関連要因に加えて、なぜ育児に向かう(向かわない)のかという育児行動の生起メカニズムを解明する必要がある。行動の生起に深くかわるのは、人を行動に向かわせるエネルギーである「動機づけ(motivation)」である。従来の動機づけ研究は、例えば自己決定理論(Deci et al., 1985)のように、目標が明確な行動に対する個人の認知の違いが重視されてきたが、近年では感情の働きや日常生活の中での習慣的・非意識的な動機づけ過程も着目されている(速水, 2012; 及川, 2017)。申請者は育児期の親を対象に「育児動機づけ」尺度を作成し、育児動機づけが「見返り期待」「内的喜び」「社会的当為」に分類されること、その中の「内的喜び」は親意識や育児行動を関連することを明らかにした(中島ら, 2015; 小林ら, 2016)。しかし、育児は喜びだけでなく、“面倒だ、やりたくない”というネガティブ感情を伴う回避的な動機づけも存在する。これらが非意識的に働き、育児行動の質・量を低下させることが予想されるが、社会的に望ましいものではないため、質問紙の回答時にバイアスがかかりやすい。そのため、測定上の困難さから育児動機づけのネガティブ感情の部分はほとんど明らかになっていない。また、子育て支援に有益な示唆を得るためには、父親・母親の男女差やサポート状況、夫婦関係など動機づけを促進・低減する関連要因の効果も検討する必要がある。これらの課題を踏まえると、社会的望ましさを排した育児のネガティブ感情を伴う動機づけを捉えるための心理尺度の開発や、意識・非意識の両面から育児行動の動機づけ過程を解明すること、それらを促進・低減する要因を明らかにすることが必要である。

2. 研究の目的

本研究は、育児期の父親・母親の育児行動への動機づけ過程を意識・非意識的な側面から解明するとともに、適切な育児行動を促進するためにはどのような要因が効果的かを明らかにすることを目的とする。非意識的な育児動機づけ過程を捉えるため、潜在連合テスト(Implicit Association Test; 以下、IAT)を用いる。IATは概念間の潜在的な連合を測定するものであり、PCモニター上に提示された刺激をキー押しにより短時間で適切なカテゴリーに振り分けるという作業を行う。本研究では育児動機づけ IAT を開発後、動機づけを促進・低減する要因は何か、関連要因(サポート状況、夫婦関係、疲労感)を検討する。さらに、父親・母親の性差を含めた動機づけ過程のモデルを構築することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 非意識的な育児動機づけ過程を測定するための IAT 尺度の開発

IAT 尺度を開発するために、以下の流れで研究を進めた。

日常的な育児行動についての確認

日常的な育児行動の確認および IAT に用いる刺激を選定するため、Twitter の「育児」関連ツイートから 22,735 語を抽出後、カテゴリー分類を行った。

イラスト刺激の妥当性の検討

の結果から、具体的な育児場面を設定する必要性や、視認しやすいイラストを使用する示唆

が得られたため、刺激素材としてイラストを用いることとした。育児場面のイラストを用意し、育児経験者 57 名（男性 13 名、女性 44 名）を対象に質問紙調査を行い、イラストの適切性と、刺激から喚起される感情に偏りがなかったかを確認した。その結果、適切性の評価が低く、誤った解釈がみられたイラスト 3 点を除外した。感情価は偏りがなく、かつ一定のばらつきが示された。育児 IAT は言語版・イラスト版の 2 種類を作成し、比較検討しながら有用性を検討していくこととした。

③「育児 SC-IAT」の作成と妥当性の検討

IAT (Greenwald & Banaji, 1995) は評価対象の対と連合対象の対を合わせた 4 つの概念を用いるが、「育児」と対になる概念の設定が困難であったことから、本研究では単一の概念を対象とすることができる SC-IAT (Single Category IAT; Karpinski & Steinman, 2006) を用いて「育児 SC-IAT」(言語版・イラスト版)を作成した。

<〔本調査〕の実施> 6 歳未満の子どもを一人のみ持つ親 200 名を対象に、作成した「育児 SC-IAT」と質問紙調査(意識的育児動機づけ尺度、夫婦関係満足度、疲労感、ソーシャルサポート)を実施した。約 2 週間後に、育児行動を測定した。育児行動は平均的な平日および休日の育児行動の内容と時間を表に記入してもらった。調査は Web 上で実施した。本調査の結果をもとに妥当性および関連要因との関連性を検討した。

「育児 SC-IAT」のバージョン比較

イラスト版と言語版の有用性を検証するため、2 つのバージョンを同一対象者に実施し、個人内比較を行った。小学生以下の子どもをもつ親と育児未経験者 49 名（男性 20 名、女性 29 名）を対象とした。

(2) 意識的育児動機づけと育児感情

〔本調査〕のデータをもとに、意識的育児動機づけおよび「育児 SC-IAT」で用いた刺激から喚起される感情(ポジティブ感情・ネガティブ感情)について分析を行った。

育児未経験者である大学生 167 名（男性 13 名、女性 144 名）を対象に、意識的育児動機づけと育児感情および育児経験について質問紙調査を行った。

育児経験者である母親 106 名と育児未経験者である女子大学生 148 名のデータをもとに、意識的育児動機づけと育児感情を比較検討した。

(3) 意識的・非意識的育児動機づけと関連要因

意識的育児動機づけ:〔本調査〕のデータをもとに、意識的育児動機づけと関連要因(ソーシャルサポート、夫婦関係満足度、疲労感)の関連性について検討した。

非意識的育児動機づけ:〔本調査〕のデータに新たに収集したデータを追加し、幼児をもつ親 55 名(父親 21 名、母親 34 名)を対象に、「育児 SC-IAT」(イラスト版)および意識的育児動機づけ、夫婦関係満足度、疲労感、ソーシャルサポートとの関連性を検討した。

4. 研究成果

(1) 非意識的な育児動機づけ過程を測定するための IAT 尺度の開発

育児 SC-IAT を作成するにあたり、育児イメージは育児経験や子どもの年齢によって個人差が大きいという問題を解決するため、本研究では通常の言語版に加えてイラスト版(図 1)を開発した。イラスト刺激については育児経験者に感情の偏りや適切性を評価してもらい、妥当性を確

認した。いずれのバージョンも「良い」と「悪い」に振り分ける際の他の刺激語は Karpinski & Steinman (2006) が用いた単語を日本語に訳したものをを用いた。

「育児 SC-IAT」は、イラスト版、言語版ともに高い正答率を示しており、育児を想起する素材として適切であったと考えられる(表1)。課題への反応時間から、イラスト版、言語版ともに m1(良い+育児)の方が短く、全体として育児に対する肯定的な態度がうかがえた。また、明確な男女差は示されなかったことから、父親・母親どちらにも使用できることが確認された。

SC-IAT の結果指標である D 値は、イラスト版より言語版の方が大きく、言語版の方が育児に対してポジティブな態度が判定されやすいことが示唆された。他方、意識的育児動機づけや夫婦関係、疲労感、ソーシャルサポートとは関連しないことが示されたことは、今後の検討課題となった。

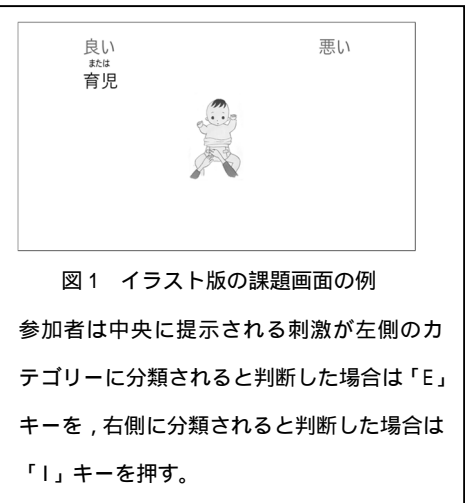


表1 SC-IATのバージョン毎の基本統計量

	左側：イラスト版 (n=72) , 右側：言語版 (n=62)							
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均値	標準偏差	最小値	最大値
m1(良い+育児)	669.34	689.58	142.00	125.34	462.04	482.83	1166.40	997.08
m2(悪い+育児)	701.08	761.81	161.09	138.63	446.15	541.43	1508.82	1236.61
D値	0.17	0.31	0.40	0.36	-0.86	-0.57	0.97	1.30
正答率	97.21	96.41	2.80	3.27	85.42	86.81	100.00	100.00

「育児 SC-IAT」の妥当性を検討するため、〔本調査〕の2回の調査への参加者54名を対象に分析した結果、非意識的育児動機づけは育児行動のうち休日の世話行動と関連することが示され、部分的にはあるが予測的妥当性が確認された。休日において世話行動に従事する時間が長くなることにより、育児に対するネガティブな態度や感情を引き起こす可能性が考えられる。

イラスト版と言語版の有用性を検証するため、2つのバージョンを同一対象者に実施した結果、実施後の感想では66%の人がイラスト版の方が回答しやすいと報告されたことから、今後の研究ではイラスト版を用いていく。

(2) 意識的育児動機づけと育児感情の関連

育児感情は「育児 SC-IAT」で用いたイラスト刺激によって喚起される感情を測定した。育児へのポジティブ感情は、意識的育児動機づけの「内的喜び」(e.g. “子どもに接していることが楽しいから”)および「社会的当為」(e.g. “世話をしなければ子どもが死んでしまうから”)を促進する一方、ネガティブ感情は「見返期待」(e.g. “自分の老後の面倒をみてもらいたいから”)を促進した。育児に対するポジティブ感情をもつ親は喜びや責任のために育児に向かうが、ネガティブ感情をもつ親は報酬のために育児をすることが明らかにされた。また、「見返期待」には男女差が示され、父親は母親に比べて何らかの報酬のために育児をする傾向が高いことが明らかになった。

育児未経験者(大学生)を対象にした場合も、育児へのポジティブ感情は「内的喜び」を促進すること、ネガティブ感情は「見返期待」を促進するという結果が得られた。しかし、「社会的当為」は意識的育児動機づけと関連しないことが示された。また、青年期までの育児経験は「見返期待」と直接的に関連するとともに、ネガティブ感情を介して間接的にも「見返期待」と関連することが示された。次の子育て世代である青年期において、育児へのネガティブ感情を

抑制、育児動機づけを促進する上で育児経験の意義は大きいといえる。

）育児経験者（母親）と未経験者（女子大学生）を比較検討した結果、未経験者の方がポジティブ感情は高く、経験者の方がネガティブ感情は高かった。また、未経験者は育児動機づけの「内的喜び」や「見返り期待」が高い一方、経験者は「社会的当為」が高かった。育児未経験者においては育児の楽しさや報酬による動機づけが比較的高いが、実際に育児を経験すると義務感や責任感から育児に向かう心性が高まることが示唆された。

（３）意識的・非意識的育児動機づけと関連要因

）意識的育児動機づけおよび関連要因の一部に男女差があるため、性別を統制して重回帰分析を行った結果、夫婦関係満足度は「内的喜び」を促進すること、ソーシャルサポートのうち情報のサポートはすべての動機づけを促進すること、情緒的サポートは「社会的当為」を促進することが明らかになった。意識的育児動機づけを促進する上で、ソーシャルサポートは重要な要因である。特に、情報のサポートが内発的・外発的動機づけの両面を促進しており、雑誌やメディア、SNSを通じて得る育児情報が、父親・母親どちらの動機づけにも影響していたため、育児情報を通じて子育て支援をしていくことは重要である。なお、身体的な疲労感は意識的育児動機づけとは関連せず、ソーシャルサポートと関連するという知見が得られた。

）非意識的育児動機づけの結果指標である D 値は道具的サポートとの間に正の相関が示されたが、重回帰分析の結果からは有意性が示されなかった。この結果については学会発表を準備中である。非意識的育児動機づけの関連要因は、本研究で検討した要因（ソーシャルサポート等）以外のものなのか、収集データの偏りなのか等、属性を含めてデータをさらに詳細に検討するとともに、今後の研究に向けて様々な視点から検討を進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小林佐知子・中島奈保子・松本麻友子・橘春菜・松岡弥玲・内山有美・金田宗久	4. 巻 35-W
2. 論文標題 育児動機づけ研究の動向と今後の展望：親はなぜ育児をするのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡県立大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小林佐知子・中島奈保子・松本麻友子・橘春菜・松岡弥玲・内山有美・金田宗久	4. 巻 36-W
2. 論文標題 女子大学生の育児に対する感情と動機づけおよび育児経験との関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡県立大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kobayashi, S., Nakashima, N., Matsumoto, M., Matsuoka, M., Tachibana, H., Uchiyama, Y., & Kaneda, M.
2. 発表標題 The relationship between emotions and motivations for childcare among fathers and mothers with toddlers.
3. 学会等名 The 32st international congress of psychology (Rapid Communication Poster) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島奈保子・小林佐知子・松本麻友子・橘春菜・内山有美・松岡弥玲・金田宗久
2. 発表標題 潜在的な育児動機づけと育児行動の関連
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島奈保子・小林佐知子・松本麻友子・内山有美・橘春菜・松岡弥玲・金田宗久
2. 発表標題 IATによる育児の非意識的態様の測定に向けて(4)：育児SC-IATのイラスト版と関連語版に対する反応の個人内比較
3. 学会等名 日本子育て学会第14回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林佐知子・中島奈保子・松本麻友子・内山有美・橘春菜・松岡弥玲・金田宗久
2. 発表標題 乳幼児をもつ父親・母親の育児動機づけと関連要因：ソーシャルサポート、夫婦関係満足度、疲労感に着目して
3. 学会等名 日本発達心理学会第34回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 麻友子 (Matsumoto Mayuko) (00771693)	神戸親和女子大学・発達教育学部・准教授 (34514)	
研究分担者	橘 春菜 (Tachibana Haruna) (10727902)	名古屋大学・教育基盤連携本部・特任准教授 (13901)	
研究分担者	中島 奈保子 (Nakashima Naoko) (10831141)	修文大学短期大学部・修文大学短期大学部・講師 (43908)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	梅田 弥玲 (松岡弥玲) (Matsuoka Mirei) (30571294)	愛知学院大学・心身科学部・准教授 (33902)	
研究分担者	内山 有美 (Uchiyama Yumi) (60735843)	四国大学・生活科学部・講師 (36101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関